V－4

桜美林短大・大学・大学院
学生の活動と生活

大学紛争と学生生活

1960年代に始まり、70年末にはほぼ終息したとされる大学紛争は桜美林でも起こった。1969年9月12日の深夜、全共闘学生20数名が亦説館のいくつかの教室と文学部の研究室をバリケード封鎖した。安三は、警察の介入や強制的排除という選択をせず、学生との対話にこだわったため長期休講も覚悟していた。ところが、9月22日の深夜、学生の手によって自発的にバリケード封鎖が悉く解除された。机、椅子を元通りに整然と並べ、綺麗に掃除してあった。壁には一字の落書きも書かれていなかったという。

大学への要求事項の一つは、マスプロ教育の是正だった。安三は大学紛争の解決策として、マスプロの是正と、学生と教員の近接が必要と考えていた 。そこで、学園のキャンパスには師友と語り合えるような設備を用意し、文哉館は学生ホールで交流できるよう設計された。その後も、キャンパス内には学生談話室やラウンジなど学生のための福利厚生施設が次々と整備されていくが、これらは大学紛争の一つの置き土産ともいえるだろう。

■「ハンガーストライキ突入宣言」立て看板（1969年）

■ハンガーストライキをする学生に話しかける安三（1969年）

■文哉館の食堂
1階は麺類コーナー、2階が学生食堂。1981年から朝食サービス（9–11時）を行い、定食を150円で提供していた。

■談話室のようす（1981年）
午前10時から午後5時までの間、学生が自由に出入りしてくつろげる場として、1981年10月に欅の広場北側に設けられた。

■談話室で談笑する学生たち（1981年）
特定の団体やクラブが独占して使用することを禁じ、個人または仲間同士の利用を前提としていた。

■清友館（学生会館）の食堂（キャフト）
1977年完成。1階に食堂があり、学生からは「キャフト」と呼ばれていた。2階より上には部室など学生のための施設が入っていた。

V－4

桜美林短大・大学・大学院
学生の活動と生活

体育祭

体育祭は、1946年の学園創立当初から行われていた。仮装行列は、「例年の呼び物」として安三・郁子夫妻も参加し、大変な人気だったという。

1965年の体育祭では、午前中は高校の球技大会の決勝と、中学、短大を中心にした競技を行い、午後からは、全学園の生徒学生を集めて行進、マスゲーム、ダンス、トラック競技の決勝等が行われた。

1966年の大学開設以降は、中学・高校と短大・大学を別日に実施するようになった。1966年の場合、中学・高校が主体の10月9日にはトラック競技とマスゲーム、短大・大学が主体の10日はレクリエーション種目で、これには中高の生徒も参加したという。

その後、短大・大学では、授業の一環として1年生の全員参加によって行われるようになった。1986年の体育祭では、徒競走や障害物競走、クラブ対抗リレー、綱引き、フォークダンスなどのほか、キャリアウーマン、おさるのかごや、けつ圧競争、竹取物語など、笑いを誘うフィールド競技も行われた。

1994年から短大のみの実施となり、97年をもって終了した。

■**仮装行列の「大風呂敷」（1949年）**
安三が日頃から立派な校舎を建てると周囲に語っていたが、その夢を「大風呂敷」と運動会のネタにされている。

■**中国から引き揚げてきたときの仮装をする安三・郁子（1962年）**
「引揚者同行二人」と書かれたプラカードを手にしている学生がいる。

■**運動会の競技に参加する安三（1950年頃）**
この当時の運動会は、旧校舎（現在の桜寮、桜グラウンドあたり）の校庭で開催された。

■**体育祭に参加する郁子（1950年頃）**
郁子は普段近寄りがたい印象を周囲に与えていたようだが、体育祭では学生たちと一緒に楽しんだ。

■**仮装行列（1963年10月6日）**
飛脚やウェディングドレスに仮装した人が見える。

■**騎馬戦（1983年）**

■**ハードル競技（1989年10月21日）**

V－4　桜美林短大・大学・大学院　学生の活動と生活

学園祭・大学祭

大学・短大の学園祭は「学祭」とも呼ばれ、大学開設の1966年以降、秋のビッグ・イベントとして開催されてきた。短大が廃止された2007年度以降はおおむね「大学祭」と呼称されるようになるが、「桜美林祭」「OBIRIN FESTIVAL」などと呼ばれる年もあった。企画・運営は、学園祭実行委員会（のちに大学祭実行委員会）が中心となって担っている。

20回の節目となった1986年の学園祭では、「桜の苑は祭色　華やかな歓声の渦、君にむけて」をテーマとして、4日間にわたって行われた。部活やサークルなどの模擬店、コンサート、展示、発表会など80を超える出し物に加え、欅の広場の野外ステージではプロのミュージシャンを招いたコンサート、ウルトラクイズ予選会、ミス桜美林コンテストなどが行われた。

2019年にビジネスマネジメント学群が新宿キャンパスに移転した関係で、町田キャンパスとは別の日に新宿キャンパスでも大学祭が行われるようになった。

■合気道部の演武（1971 年）
当時の学園祭では、合気道部の演武が恒例の行事だった。

■野外ステージ（1981 年）
ステージにその年のテーマ「時を超えてぼくたちは加速する」が書かれている。

■野外ステージと欅の広場（1984 年）
野外ステージは現在よりも右寄りに設置されていた。右側に見える2階建ての建物は学生談話室と部室。

■華道部の展示（1984 年）

■立ち並ぶ模擬店（1989 年 11 月）

■留学生も参加（1990 年 11 月）

■沖縄エイサー部の演舞（2019 年）

■新宿キャンパス大学祭（2019 年）
2019年から新宿キャンパスでも大学祭が行われるようになった。

V－4

桜美林短大・大学・大学院
学生の活動と生活

国際交流プログラム

大学・短大の国際交流の歴史は古く、短期・長期を含めさまざまな留学プログラムが行われていたが、1990年代に入ると、留学だけでなく、海外ボランティアやワークキャンプといった形の国際交流を求める学生が増え、1990年に設立された国際交流センターがそれを支えた。

1993年度からは、海外ボランティアとしてフィリピンやマレーシアに学生を派遣し、農業実習などの国際協力研修プログラムを開始した。さらに1998年度から、海外の企業の中に入って研修を重ねる海外インターンシッププログラムも実施している。

一方、海外からやってきた留学生と日本人学生との交流を図るため、1997年から山中湖畔のYMCA山中湖センターで1泊2日のインターナショナルキャンプを開始した。大自然の中で寝食をともにし、ゲームやスポーツアクティビティを楽しみながら交流するというものである。2006年からは、伊豆高原クラブで留学生を対象とした正月体験のイベントも実施している。

■ **地域社会参加（国際理解訪問授業プログラム）で実施したワークショップ(2010年10月16日)**
基盤教育院フィールド教育デパートメントにおけるフィールドスタディーズの一環として実施された。

■ **国際協力フィールドワーク（フィリピン）（2013年）**
ボランティアとして棚田の修復作業を手伝った。

■ **フィリピン国際協力研修プログラム（1997年）**
農業の様子。

■ **フィリピン国際協力研修プログラム（1997年）**
フィリピン最後の夜。

■ **山中湖インターナショナルキャンプ（2018年）**
自然に囲まれた環境の中で、ゲームやアクティビティを通して留学生を含めた学生同士の親睦を深めるイベント。

■ **伊豆高原留学生正月体験**
留学生に日本の正月文化を体験してもらうイベント。伊豆高原クラブを会場に、餅つき、書き初めなどを行う。

V－4

桜美林短大・大学・大学院
学生の活動と生活

社会貢献・地域貢献

「学而事人」という桜美林学園のモットーが示すとおり、社会貢献・地域貢献はすでに大学創立時より積極的に推進されていた。特筆すべきは、1990年度から始まった必修科目「キリスト教学」で、年間60時間以上のボランティアワークをすれば単位取得できるというものだった。これは当時の学園長 清水畏三の発案で、日本の大学で初の試みだったという。

この理念は、2006年から始まったフィールド教育プログラム、さらに11年に設立されたサービスラーニングセンターが中心となって実施するサービスラーニングへと受け継がれている。また、学生団体やゼミなどによる各種ボランティア活動も盛んで、特に本学学生・教職員が積極的に関わって実施する境川クリーンアップ作戦は、すでに夏の風物詩となりつつある。

1997年から活動を開始している草の根国際理解教育支援プロジェクトは、近隣地域の社会教育施設や学校などが行う国際理解教育活動を支援する取り組みで、国際交流と地域貢献とを併せ持った桜美林らしい活動である。

■被災地でのボランティア活動（2014 年）
被災地での復興支援活動への学生の参加支援を行い、2014年前期までの参加学生は525名となった。
（サービスラーニングセンター提供）

■小山田トンネルアートプロジェクト（2013 年）
トンネル内の落書き防止と明るい雰囲気作りのため町田市青少年健全委員会の依頼を受け、全学群から約100名が参加。

■地域学校パートナーシッププログラム（2007 年）
地域社会参加、フィールド教育の一環として、学生が学校にボランティアとして1学期間通う授業を実施していた。

■境川クリーンアップ作戦（2015 年 7 月 26 日）
境川クリーンアップ作戦実行委員会が主催、相模原市・町田市が後援し、2001 年度から毎年、7月の最終日曜日に清掃活動を行っている。

■「DANCHI Caravan」に参加（2016 年 3 月 5 日）
「DANCHI Caravan」は町田山崎団地で防災をテーマとした地域参加型イベント。UR都市再生機構と団地自治会・自主防災会が主催し、ワークショップやキャンプなどを通じて、災害に備える知識や心構えを楽しく身につけることを目的に実施した。

■草の根国際理解教育支援プロジェクト発足の頃（第 2 回研究会）（1997 年 9 月 26 日）
研究会を重ねて活動の方向性を議論した。ホワイトボードの前に、当時の代表 上山民栄の姿が見える。

■草の根国際理解教育支援プロジェクトによる異文化体験展示（2001 年 8 月 28 日）
町田市ひなた村で行われた町田市夏休み子どもフェアに出展した。

V－4　桜美林短大・大学・大学院　学生の活動と生活

運動部（OACU体育会）の活動

桜美林大学短期大学体育文化団体連合会（Obirin University and Junior College Athletics and Cultures Union＝通称OACU）は、1968年に運動部の学生組織として設立された。短大が廃止されてから、桜美林大学体育文化団体連合会に改称された。2021年現在、体育会24団体、文化会15団体から構成されている。

1968年にアメリカンフットボール部、70年に弓道部、78年にラグビー部と準硬式野球部（2008年に硬式野球部へ移行）、80年に陸上部、男子・女子バレーボール部、89年チアリーダー部（97年にチアリーディング部に改称）、93年にソングリーディング部がそれぞれ創部された。また、かつては合気道部、ワンダーフォーゲル部など、今はない団体も存在していた。

OACUは、献血活動や境川クリーンアップ作戦への協力など、単に部活動の連合体だけではなく、社会貢献活動を行う役割も担っている。

■新入生クラブ勧誘（1983年）

■サッカー部（1988年6月10日）

■少林寺拳法部（1988年6月9日）

■バレーボール部（1989年5月18日）

■剣道部（1987年7月3日）

■アーチェリー部（1988年6月13日）

■ゴルフ部（1977年）

■バスケットボール部（1985年7月10日）

V－4　桜美林短大・大学・大学院 学生の活動と生活

文化部（OACU文化会）の活動

文化部（OACU文化会）は、年によって変動があるが、2021年現在は、演劇部、沖縄エイサー部、桜美林クリスチャンクラブ、華道部、軽音楽部、サイクリング部、茶道部、写真部SHOT、陶芸部、美術クラブアトリエ、ボランティア部、モダンジャズ研究部、落語研究部、フラ部、STEP E.S.Sの15団体で構成されている 。

1985年に発行された『桜美林大学だより』第25号には、「光る青春！躍動する53クラブ」としてOACUの構成団体が紹介されているが、なかには英文タイプ部、短大英語研究部（J.E.C）、箏曲部、放送部（O.B.C）、人形劇プーコア、フォークソング研究部、アメリカ語学研究部（O.S.A.L）、混声合唱団、演劇集団ぺるそな、考古学研究部、社会福祉研究会、ギターアンサンブル、桜美林ペンクラブ、旅の会、鎌倉を愛する会、ユースホステル愛好会、ビデオアート愛好会（V.A.C）、鉄道研究会といった、2021年現在では見られないユニークな団体も存在していた。

■茶道部（1983年）

■演劇部（1987年7月2日）

■落語研究部（1989年5月19日）

■華道部（1989年5月31日）

■陶芸部（1987年7月3日）

■軽音楽部（1988年6月16日）

■放送部（1988年6月9日）

■箏曲部（1987年7月2日）

V－4

桜美林短大・大学・大学院
学生の活動と生活

活躍するOACU

2012年4月に、学生のスポーツ活動支援などを目的にスポーツ推進センターが設立され、同時に、重点的に強化していく部を「特別強化クラブ」として認定する制度を開始した。2021年現在、特別強化クラブとして、アメリカンフットボール部、弓道部、野球部、ソングリーディング部、チアリーディング部、女子バレーボール部、男子バレーボール部、陸上競技部（駅伝チーム）が指定されている。

男女合わせて6回の全国優勝を誇る弓道部、2012年と14年に世界大会優勝を果たしたソングリーディング部、20年に明治神宮野球大会で準優勝、21年に全日本大学野球大会初出場を果たした野球部など、着実に実績を積んできている。陸上競技部（駅伝チーム）は、2018年に関東学生連合チームの一員として箱根駅伝を走った。

また、OACU文化会では、2019年に沖縄エイサー部（桜風エイサー琉球風車）が天皇即位を祝う祭典に出演し、皇居前の内堀通りで演舞した。

■ **ソングリーディング部CREAMが、IASF THE DANCE WORLDS 2012（クラブチーム世界選手権）Open Jazz部門で優勝（2012年4月）**
1990年にサークルとして設立、2005年に全国大会初優勝、12年、14年に世界大会で優勝。

■ **チアリーディング部が、ダンススポーツアジアンチアリーディングチャンピオンシップの自由演技競技女子部門で優勝（2016年11月26日－27日）**
1989年、アメリカンフットボール部の応援活動を目的に創部。全国大会での優勝、海外大会へも出場経験がある。

■ **弓道部男子が、全日本学生弓道選手権大会で優勝（2002年8月）**
1970年創部。男女合わせて全国優勝6回を誇る強豪。

■ **準硬式野球部が全日本大学準硬式野球選手権大会で初優勝（2007年8月）**
1978年準硬式野球部として創部、2007年の全日本大学準硬式野球選手権優勝を機に、08年に硬式野球部へ移行した。

■ **第94回箱根駅伝に出走した田部幹也選手（健康福祉学群3年）（2018年1月2日）**
1980年創部。関東学生連合チームのメンバーとして箱根駅伝の往路3区（21.4km）に出場した。

■ **アメリカンフットボール部が、関東大学リーグ関東1部TOP8リーグで2位（2020年11月）**
1968年創部。最高成績は、関東学生アメリカンフットボール連盟リーグ戦1部ブロック4位（1981年、83年、88年）。

■ **沖縄エイサー部（桜風エイサー琉球風車）国民祭典での演舞（2019年11月9日）**
2008年創部。地域のお祭りやエイサーのイベントに出演。沖縄国際大学との交流も盛んに行われている。

V－4　桜美林短大・大学・大学院　学生の活動と生活

学生団体の活動

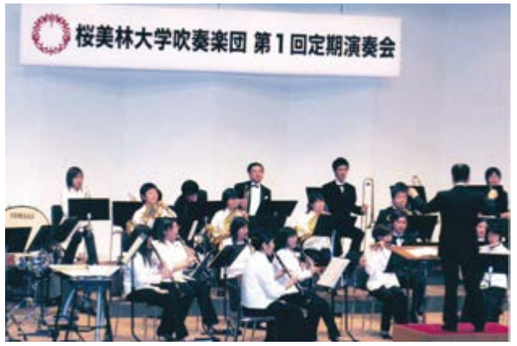
大学の入学式・卒業式をはじめ各種式典などでは、学生団体であるクワイヤー、オーケストラの演奏が彩りを添えている。これらは大学公認の学生団体であり、そのほか吹奏楽団、大学祭実行委員会、卒業アルバム委員会などの公認団体がある。

また、オープンキャンパスの企画から準備･運営を担う学生ボランティア団体である「桜インターン」、新入生歓迎イベントを企画・運営する「新入生歓迎プロジェクト」、学生・教員・図書館・大学生協の４者協働で読書の楽しさ・おもしろさを多くの学生に伝える「図書館運動プロジェクト実行委員会（読プロ）」、桜美林学園生協とともにさまざまなイベントを行い学生生活をサポートする「生協学生委員会」､リベラルアーツ学群の学生による学術的活動を支援する「リベラルアーツ学会」など、さまざまな学生団体が活動している。

さらに、OACUに属さないサークルも100団体以上あり、学生の自主的な活動の裾野を広げている。

■ **オーケストラ定期演奏会（2004 年）**
1977 年結成。2000 年に文学部総合文化学科の授業科目として運営されるようになった。

■ **クワイヤー・クリスマスコンサート（PFC にて）（2008 年 12 月 16 日）**
2002 年結成。桜美林学園チャプレン室所属の聖歌隊。大学の礼拝、入学式・卒業式等の式典での奉唱のほか、各種演奏会を行う。



■ **吹奏楽団第１回定期演奏会（2005 年）**
2002 年結成。設立直後より大学の全面的なバックアップを受けて活動の基盤が整備された。

■ **桜インターン（2015 年）**
2003 年結成。オープンキャンパスの企画から準備・運営をする学生スタッフ団体。入試運営、キャンパスツアーも行う。

■ **桜美林大学図書館読書運動プロジェクト実行委員会（読プロ）ミーティングのようす（2014 年９月 18 日）**
2005 年結成。学生、教員、図書館、大学生協の４者協働で読書の魅力を伝える活動をしている。

■ **生協学生委員会・生協留学生委員会による留学生バザー（2001 年９月 18 日）**
留学生に対する生活支援として同志館を会場に実施した。生協留学生委員会はのちに生協学生委員会に一本化された。
（桜美林学園生協提供）